

# 京都支部報

No. 6 1979  
12.22

〒606  
京都市左京区吉田本町  
京都大学経済学部図書館  
電話 西白 TEL 753-2111 内 3412

■ 大学図書館問題研究会京都支部 ■

## I. オズ回総会ひらかれる。

10月22日(土) オズ回総会が6大学16名の出席のもと開かれ、結成以来1年の活動を総括し、1年間の活動の成果をさらに発展させる方針と活動の中心をになう新支部委員を選出しました。

- 1) 活動の基本
  - ・大学図書館員同士の交流を密にする。
  - ・各大学図書館の伝統と活動について理解を深める。
  - ・大学図書館の諸問題について認識を深め、その解決のために共同する。
  - ・大学の社会的機能としての学術研究や教育の問題とともに広く社会の文化的諸問題についても生き生きとした関心をもって活動する。
- 2) 活動の課題と具体的すすめち
  - ・研究活動と交流 = 例会・小グループ研究・成果の発表(会報等)  
大阪支部、兵庫地区との共同例会。
  - ・会員拡大と図書館見学 = 参加大学をふやし日常的に協力しあう。
  - ・図書館界の動きや国の学術政策などの情報交換を密にする。
  - ・関係諸団体や利用者との協力する。
  - ・公共図書館問題への関心をもつ。
- 3) その他
  - ・支部の運営は大回研会則に準じる。
  - ・支部委員会を置く。事務局を京大に置く。
  - ・支部報を発行する。
  - ・財政は会費の還元金を基礎とする。
- 4) 会員
  - ・結成時 8大学42名 → 現在 9大学48名

総会では活動を豊かに発展させる多くの発言の中、大成功に終わりました。

新支部委員と任務分担(総会後の支部委員会決定を含む)

- ・支部委員会
- ・支部長 酒井(府大)・副支部長 成山(竜大)・事務局長 沢居(京大)
- ・全国委員 堤(京大)・支部報担当 沢田(立命)・研究委員会 成山
- ・近畿三支部担当 岩本(滋医大)・支部委員 松浦(池田) 平元(工繊大)
- ・事務局員 大沢・白神(京大)

## II. オ2回支部委員会報告 1979 11 17 (土)

支部委員会ではオ2回総会の総括、最近の情勢、総会決定をうけるの当面の活動の具体化、任務分担の決定等をおこなないました。

### 1) 全国研究集会の近畿開催について。

- ・ 来年4月ごろ京都でおこなう。
- ・ 実行委員会形式 = 京都・大阪・兵庫三支部協力
- ・ テーマについては実行委員会で決定しこゆく。
- ・ 京都支部から若本、尾居が実行委員会に参加する。

### 2) 研究活動

#### a) 小研究グループの組織化

- ・ 来年1月にグループ研究交流会を開催する。
- ・ 支部委員会が橋渡し役となり大学の株をこえたグループ組織化をすすめる。

#### b) 例会

- ・ 2ヶ月に1回開催する。

#### c) 論文集

- ・ 年1回まとまったものをつくる。
- ・ オ1号 1980年8月31日五冊に。
- ・ 個人、グループ研究の成果を発表する。

### 3) 支部報について

- ・ 毎月発行 = 当面100部
- ・ 研究活動の紹介、情報提供、各館紹介、活動報告等

オ1回グループ研究交流会

「図書館研究の諸問題について」

講師 = 森 耕一氏 (京都大学)

日時 1980. 1. 14 (土) 午後2時 ~ 5時

場所 京都教育文化センター 3号室

図書館問題研究の当面の課題をわかりやすく話してもらい、今後の研究活動をすすめるきっかけになればいいと思っております。また皆で討議。その中から研究グループが出来てくれれば幸いです。

※ 終了後 新年会をかねた懇親会をおこないますので、ぜひ参加して下さい。

1979.10.24付 文教閣報より

◎ 図書館資料充実や職員の増員を

＝ 国大協、大学図書館の55年度予算で要望 ＝

国立大学協会はこのほど「大学図書館の昭和五十五年予算に関する要望書」を大蔵省などに提出した。それによると図書館資料充実のための措置、図書館職員増員のための措置など四項目からなっている。

同協会では、図書館特別委員会を設けて大学図書館改善のための検討を行い、その結果と各大学の要望をふまえて厚生関係当局に行政上並びに予算上の諸措置を要請しているもので、今年も同様の要望書を出した

なかでも大学図書館の従来からの業務が量的に増大したりえ、学術審議会の「今後における学術情報システムの在り方について（中間報告）」で指摘されているわが国の学術情報システムの整備充実のための大学図書館が担うべき役割は重要であるのに対し、現状は人的・物的の両面において不十分であるとしている。このため次のような施策を実現するよう求めている。

▽ 図書館資料充実のための措置

一、外国雑誌購入費について＝昭和五十二年度新設の外国雑誌購入費の配分は自然科学系の大学に対して行われ、国立大学間の相互利用手続の改善もあつて教育・研究に多大な効果をあげている。今後も、従来の配分額の増額とともにその範囲の拡大、ことに社会科学系、人文科学系に対しても配分されることを要望する。

二、参考図書購入費について＝参考図書に関しては、その基本的ものを整備することはもとより、各大学図書館に必須の二次資料が多数刊行されているので、これの購入のための財源として参考図書購入費の増額を要望する。

△図書館職員増員のための措置

一、相互協力業務担当職員について≡全国的な相互協力体制を推進するには、その拠点となる図書館において図書館資料の収集、受入、整理連絡、複写等広範囲にわたって業務の増大を伴うので、そのための担当者が必要となる。については当該図書館に対し、要員の確保増加を図ることを要望する。

二、参考業務担当職員について≡参考業務担当職員については、これまでの予算措置により一応の充実にみたが、近年機械化された大型データベースを使用している参考業務も始まっております。学術情報流通の窓口として、その要員の必要が増してきたので、新たに増員を図ることを要望する。

△図書館職員待遇改善のための措置

一、事務部長、課長、事務長について≡図書館の管理職が事務局等の部課長より一段と低い管理職手当を受けていることは、学内における図書館の位置を低くすることであり、図書館に人材を得ることの妨げとなつてゐる。についてはこれらのものの管理職手当を事務局等の部課長と同格になるよう措置されたい。

二、図書館職員について≡図書館職員の職務は、高度の知識と技術を必要とするので、その選材を確保するため、同等級、五等級の定数の拡大とともに、課長補佐、事務長補佐、副長、増加を要望する。

△図書館近代化のための措置

一、「学術情報システム」は本校の各大学図書館の業務の改善、近代化にとって重大な役割を果たすことになるが、大学図書館の現状では適切な対応ができないおそれもある。したがって、このシステムの実現にはそれに伴う人員、経費等についても充分配慮されることを要望する。

◎ 学術情報システムで要望

Ⅱ 国立大学図書館協議会が文部省などにⅡ

国立大学図書館協議会（藤原鎮男会長）はこのほど、「学術情報システム」に関する要望書を文部省など関係方面に提出した。これは全国立大附属図書館によつて構成されている同協議会が名古屋大学で理事会を開き、国立大学図書館の当面する諸問題、とくに今年六月に発表された学術審議会中間報告「今後における学術情報システムの在り方について」を議題として協議した結果、要望することになつたもの。

同協議会は、学術審議会の中間報告「学術情報システム」について、今後の我が国の学術の発展に大きく寄与するものとして、趣旨・内容に賛意をし、とくにその内容は料来の大学図書館活動の発展に深くかかわる問題であり、その実現に大きな期待を寄せている。

学術情報は近年とくに質量とも変貌発展したのに伴い、大学図書館の取り扱う図書等の資料は年々増加の一途をたどり、図書館業務の適正な運営を困難にしてきた。また、学術研究の進展に伴つてその情報活動を分担する図書館に対する研究者の期待も高く、その業務のあり方の改善も求められている。こうした中で、中間報告に盛りこまれた学術情報システムに関する施策が実施された場合、大学図書館としては一次資料の整備充実、それに伴う図書の整理をはじめ、さらに参考業務、相互協同等の業務処理について抜本的改善を必要とするものと考え、学術情報検索の窓口としても研究者に対する学術情報提供の役割を期する必要があると強調している。

さらに個々の問題点は総合的に推進する必要がある。可能な限り早期に着手、実現することを求めている。

◎ 学術情報システムのきめ細かい配慮を

≪ 国立七大学図書館協議会が要望書提出 ≫

国立七大学附属図書館協議会（北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州）の各大学附属図書館長と事務部長・課長をもつて構成（は）このほど「学術審議会中間報告について」と「附属図書館の事務部長・課長（事務長）の処遇改善について」の二項目からなる要望書を文部省、大蔵省、行政管理庁、人事院に対し提出した。

これは先に九州大学で開かれた同協議会の席上、ことし六月に発表された学術審議会中間報告「今後における学術情報システムの在り方について」を中心議題として協議した結果に基づくものである。とくに中間報告については基本的に賛成を表明しており、その実現を強く求めている。要望内容は次の通り。

一、学術審議会中間報告について≪協議会としては、この「報告」に基本的に賛成であり、その実現の促進を要望するものであるが、当座、次の事項につき特に配慮されたい。

(1) 「システム」の「センター機能」を果たすべき機関の設置を促進すること。

(2) 「システム」の整備に関しては、学術各分野の異なる特性に着目して、きめ細かい配慮が払われるべきこと。

(3) 和文雑誌総合目録の作成計画を促進し、全学術雑誌総合目録の集中的データベース化を図ること。

二、附属図書館の事務部長、課長（事務長）の処遇の改善（俸給の特別調整額の増額）について≪このことについては国立大学図書館協議会でもかねてより要望を続けているものだが、ここに重ねて要望し善処を願いたい。

#### Ⅳ. 活動紹介

##### ・ 立命での活動

昨年8月、はじめは大園研に三人入り1年余、1年副学内で活動らしきものは全くしていませんが支部オ2回総会前に皆で集まり以下のような学内での活動をはじめていきます。

- ・ 会費数 '78.8 = 3名 → '79.10 = 7名 → '79.11月現在 11名
- ・ 班としての確立 = 班長, 班委員会設置
- ・ 定例学習会の開催 (月1~2回)
- ・ 班ニュースの発行

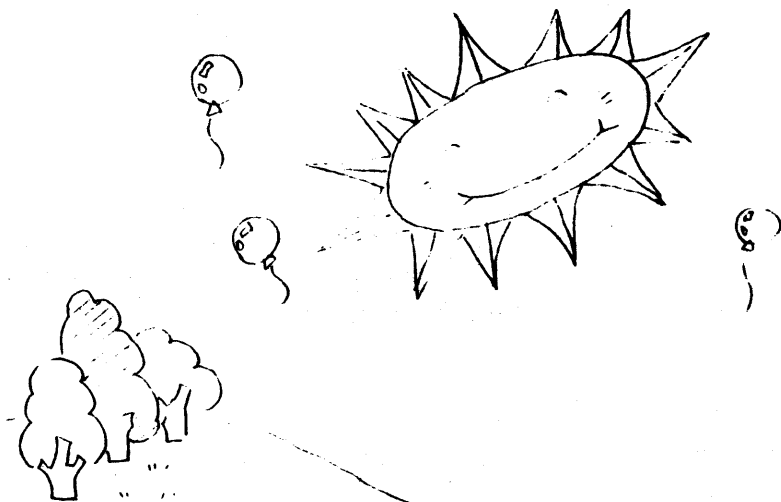
##### 今後の予定

- ・ 1月新年会
- ・ 学内での「大園研を知ろう会」の開催 = 会費払大
- ・ 定例学習会の継続と研究グループの組織化

まだよちよち歩きですが池田大学り皆さんと交流し、大園研を立命に定着させていきたいと思っております。

#### Ⅴ. 支部委員会より

- 1) 「こんな研究をしたい」、「こんな話しをききたい」、「こんな情報がある、  
人でも支部委員会に意見、情報をもちこんで下さい。」
- 2) 各館でのこぼれ話、活動紹介、研究成果、意見等を支部報編集委員  
(立命大 沢田)まで。
- 3) 大園研年会費 3000円を支部委員会へ



# 図書館学の課題

講師 京都大学教授 森耕一氏

## 大学図書館問題京都支部 研究集会

1月19日(土) 2時~5時  
教文センター-3号室(京大病院前)

◇大学図書館問題研究会京都支部では、会員の創意を生かしたトグル  
ープによる日常研究を活発におこなうことを大きな目標にしていま  
す。そこで1980年の年頭にあたり、図書館研究の無限の開拓分野を森耕一先生の講義を中心に話し合い、具体的な研究  
グループの発足をうながすことになりました。会員はもとより、会員でない方も図書館に興味をおもちの方はぜひご御参  
加ください。



### < 講義要項 >

#### 基礎論

- P. Butler 図書館学序説
- J.H. Shera Introduction to library science
- P. Karstedt 図書館社会学
- 小倉親雄 アメリカ図書館思想の研究

#### 図書館資料論

- 図書館選択・蔵書構成
- 河井弘志、英米図書館選択論史 『図書館界』31(1)

#### 知的自由

- Intellectual freedom manual
- Advances in librarianship vol. 2

メディア  
センター

#### 図書館資料組織論

- 特定図書館検索(目録法)
- 目録法史 J. Trout
- 特許論争 → 記述独立方式(1956)
- Computerized cataloging
- 主題検索(分類法)
- S.R. Ranganathan Faceted classif.
- 専門分類表

#### 流通情報

付各標目 → Thesaurus (descriptors)  
\* 情報検索

#### 図書館活動 Library services

- 貸出 コンピュータの導入
- レファレンスサービス Rothstein 長沢記
- 読書会・読書運動
- 文化活動

#### 図書館システム

- 分館論 西村精一 栗原嘉一郎
- 中央図書館
- 図書館ネットワーク

#### 図書館管理 Lib. administration

- 読書調査・図書館利用調査
- 図書館評判
- 図書館計画 図書館の基準

#### 図書館行政 図書館法の歴史・比較研究

職員論 館長論

#### 図書館史

- Johnson, 小野泰博, 小野則秋
- 教育史と図書館史
- 思想史・科学史(知識の歴史)と図書館
- \* F. Edward G. 中田邦造 中井正一 有山崧